



万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部ニュース

News of Japan Chapter of International Society of Surgery

発行：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部
〒160-8582 東京都新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部外科学教室
TEL: 03-5363-3802 FAX: 03-3355-4707
発行者：北野正剛
編集責任：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部事務局長
和田則仁 (慶應義塾大学医学部外科学教室)
印刷：株式会社 dig TEL: 03-3551-3060
年 2 回発行 1995 年 4 月創刊

Welcome Message

48th World Congress of Surgery (WCS)
2019 11-15 August 2019 Krakow, Poland

LOC President

Adam Dziki,



Dear Japanese Colleagues

It is a great honor for me to invite You to participate in 48th World Congress of Surgery (WCS), which will be held in Krakow (Poland).

From 11 to 15 August 2019, surgeons, doctors, researchers, students as well as other healthcare and business professionals from all over the world will converge on Krakow to discuss the latest advances in the various fields of surgery and surgical research and develop new ideas. The scientific program includes 60 main sessions, oral communications and posters which will be exposed for the duration of the conference. In addition, variety of workshops and special sessions would be interested in audience. We are very delighted to be holding this event after very successful previous meetings in Basel (2017) and Bangkok (2015).

This Congress will also be Incorporating the 69th Congress of the Association of Polish Surgeons (APS). Polish and Japanese Societies of Surgery has a history of fruitful and long-lasting cooperation, resulting in exchange programs and conferences as well as scientific cooperations between surgeons. That is why, this is of immense pleasure for me, that I can personally invite me Japanese friends to join us for WCS 2019, in an atmosphere conducive for collaborations and scientific associations.

Krakow is a cosmopolitan and open-minded city with a long tradition of academia. The people of the Lesser Poland are known for their hospitality; I know that you will feel right at home here. Should you have the time in between all the meetings and conferences, don't miss the opportunity to visit Krakow's most popular tourist attraction: Wawel Castle, medieval Market Square, Saint Mary's Basilica and Kazimierz Jewish Quarter. And don't forget to end the day with a cool, refreshing glass of the local craft beer in one of Krakow traditional breweries.

I look forward very much to seeing you next August in Krakow.

Adam Dziki, FACS (hon), FRCS (hon), DGCh (hon), ESCP (hon), FASCRS (hon),
Professor of Surgery

Best regards
Adam

ISS/SIC 理事会に参加して

万国外科学会日本支部長
大分大学学長
Councilor, ISS/SIC
北野 正剛



いよいよ Krakow での WCS 2019 が目前に迫ってまいりました。万国外科学会日本支部では Krakow での学会の成功に向け積極的に活動してまいりました。これまでは開催年の春になってから、ようやく司会者の推薦の依頼がきていましたが、国際学会で開催の3か月前に司会をお願いできる先生を探すのはとても厳しい状況でした。今回は今野弘之教授がISDSの会長でもあり、昨年秋の理事会で日本から一人でも多く司会者になれるよう、日本支部で協力して理事会メンバーに働きかけてきました。その甲斐あって、いくらか司会の先生を増やすことができました。IASMEN 会長の東口高志教授にもご尽力いただき多くの日本の先生を引き立ていただきました。会期初日 8 月 11 日の Opening ceremony 後に、恒例の Japan Night を開催いたします。これまでは企業の支援を受けて開催してまいりましたが、昨今の規制強化の流れで、同伴者の参加が制限されるなど、難しい問題が出てきておりました。夏休み期間中でもありご家族連れで参加している多くの先生方に気持ちよく参加していただくため、今回は会費制とさせていただきます。ISS/SIC において高いアクティビティーを維持している日本支部を象徴する有意義な会となりますよう、引き続き会員の先生方のご意見を伺いながら懇親の場のあるべき姿を求めてまいりたいと思います。

また、WCS2019 (8 月 11 日 - 15 日) に先立ち、3 月 15 日 - 16 日にポーランド・クラクフにて開催された、ISS/SIC Executive Committee Meeting に日本支部長として参加しました。特に今回は WCS2019 のプログラム内容について議論し、登録した日本からの Abstract Submission 数は 91 で、Total 1,214 のうち、第 4 位でした。例年のごとく、日本の積極的な立場を示すことができました。さらにご存じのように次回 2021 年は、8 月 29 日 - 9 月 2 日にマレーシアのクアラルンプールで開催決定しています。どちらも皆様の積極的なご参加をお願い致します。

以上、報告となりましたが、今後とも、ご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

WCS2019開催のお知らせ

今回の WCS は、2019 年 8 月 11 日から 15 日、
ポーランドのクラクフで
開催されます。

Krakow, Poland
11 - 15 August 2019
**48th World Congress
of Surgery**

支部活動報告 (2018 年 1 月 ~ 12 月)

2018. 4. 1 万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部ニュース第 46 号発行
2018. 4. 7 第 45 回万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部総会 (於: 東京 東京国際フォーラム)
2018. 7 ~ 12 WCS2019 Krakow プロモーション活動 (4 つの主要学会でポスターちらし設置)
2018. 9 ISS Foundation へ寄附金 1000 ドルを送付
2018.10 YOKOHAMA AWARD 第 4 回 (WCS2019 Krakow) 募集
2018.11.24 第 46 回万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部総会 (於: 東京 ザ・プリンスさくらタワー東京)

会員動向 (2019 年 2 月 15 日現在)

会 員 数 **355 名** (2019 年 新規会員 9 名)

内 訳 正 規 会 員 327 名
シニア会員 25 名
名 誉 会 員 3 名

万国外科学会の思い出

藤田医科大学病院 国際医療センター
センター長・教授

前田 耕太郎



万国外科学会日本支部ニュースへの原稿依頼が来て、いつ頃から学会に参加したか調べてみたが、なかなか確かな年度が確認できない。印象に残っているのは 1997 年に行われたメキシコのアカプルコでの学会であろうか。学会の印象はあまり強くないが、その直後に学会の会場となった場所が災害にあい、壊滅状態となった町の映像をテレビで見たときは驚きであった。学会での参加では、いつも発表を行ってきたが、アカデミックに印象が強かったのは 2009 年にオーストラリアのアデレードで行われた学会である。Mayo Clinic の Michael Sarr 会長の下で開催されたが、漢方に関するセッションが行われた。札幌の河野先生が講演され、講演後に Michael Sarr 会長が漢方は Kanpo Medicine であると発言されたことは印象深い。不思議な縁で、その夜には河野先生にご自分のお仕事を紹介していただき、部屋でワインとチーズで盛り上がったのがついこの間のような気がする。アデレード滞在中には、バロッサバレーのワイナリーの半日観光もでき、思いがけないワインとの出会いもあった。2011 年には渡辺昌彦総会会長の下で、横浜で盛大に総会が開催された。当に日本の誇る国際学会となった。2013 年はフィンランドのヘルシンキで開催された。不思議な縁で、Michael Sarr 教授の司会で今年 2019 年の臨床外科学会総会会長の花崎和弘教授、京都大学（現兵庫医科大学）の波多野悦朗教授と漢方の講演をさせていただいた。

特別発言は、その年に Kitajima Prize が創設された北島政樹教授がなされたのは思い出深い。Sarr 教授には、私たちの発表を事前にチェックして頂き、細かくご指導を頂いた。2015 年はタイのバンコックで爆破が起こった直後に出席した。町中はまだ何となく慌ただしい印象を受けたが、会場も爆破の場所のすぐ近くであった。2017 年のスイスのバーゼルの学会では、二つのシンポジウムでの発表の機会をいただいた。片方のプレゼンでビデオが途中でうまく出なくなり苦勞したが、2 日間を通して発表を繋ぎ、なんとか聴衆に納得していただける発表ができたかと思っている。学会後は、ヨーロッパでもなかなか行けないレストランの予約がとれて、仲間たちとワインと料理で盛り上がった。バーゼルは、スイスとフランス、ドイツの国境の街であり、食事やワインもこれらの地域の混成の印象があり興味深かった。また、思いがけずに、生産数が少ないためになかなか日本ではお目にかかれない美味しいスイスワインも楽しむことができた。2019 年は、これまで行ったことのないポーランドでの学会である。クラコウでは、司会と発表の予定であるが、歴史のある街並みを歩けることを楽しみにしている。



アルザスのブドウ畑



素晴らしかった思い出のスイスワイン

地方大学における国際的視野を持った医療人の育成への取り組み（その 2）

高知大学医学部医療学講座医療管理学分野
外科学講座臨床腫瘍・低侵襲治療学（兼）

小林 道也



2007 年から高知大学医学部の国際連携推進委員長を、また 2014 年からは医学部だけでなく高知大学の国際連携推進センターの兼務教員も務めています。

私が責任者となって締結した協定が 3 つあります。1 つは 2011 年のハワイ大学医学部との部局間（学部間）協定です。ハワイとの連携につきましては 2013 年のニュースレター第 36 号に書かせていただきました。さらに 2012 年の台湾大学医学部、また 2019 年のウズベキスタンの Tashkent Dental Institute です。

今回は台湾大学との交流について述べさせていただきたいと思います。

台湾大学医学部とは部局間協定を締結し、毎年看護学科の学生 5 - 6 名がお互いの大学で短期研修を行っており、双方向の交流が継続しています。この協定締結には大北駐大阪経済文化弁事処（総領事館）に大変お世話になりました。台湾大学は旧台北帝国大学であり、台湾大学医学部の前身の台北帝国大学医学部は日本人が学部長、院長を務めた時代もあります。ちなみに第 3 代の医学部長は森鷗外のご子息、森於菟（もりおと）先生です。このような伝統ある、アジア有数の大学と協定を締結できたのは、私の父の時代から中華民國台湾との長い民間交流実績があったからです。父はかの蒋介石とも何度か面会をし、李登輝元総統とも面識がありました。2009 年には李登輝元総統が高知にお越しになり一緒に食事をさせていただいたことがあります。2014 年には台北で開かれた経済界のパーティーに招待され、光栄にも私は李登輝元総統、王金平立法院院長と同じ主賓のテーブルにつかせていただきました。2013 年には当時の高知大学学長脇口宏先生とともに台湾の教育部（文部省）の招待で、台北、台北近郊、台南の 5 つの医学部を視察しました。その目的は台湾も大学が増え、日本が行った大学の法人化、統合を視野に入れているので意見を聞きたいということでした。

これまでの長年の交流の中で台湾政府からは毎年 10 月 10 日の国慶節の式典にお招きいただいています。午前中は総統府の前の大きな広場での式典、パレード（軍事パレードや戦闘機の飛行などもあります）に参加します。当日の会場周辺は完全に交通規制、人員規制がかかっており、外交部（外務省）の許可証がなければ規制区域内には入ることができません。

式典が終わった夕方からは総統府の近くの台北賓館という迎賓館で外務大臣主催のパーティーに招待されます。この迎賓館は日本時代に建築され

たものです。パーティーには台湾の総統はもちろん、友好国の大統領、国会議員も参加しています。この会場に入るには招待状を持った上で、当然厳しいセキュリティを通して入っていくわけですが、ここを通り抜けるとレッドカーペットが屋外に敷かれており、その上を歩いて荘厳な建物に入っていきます。民間人の私にとっては通常経験することのできない異世界の会です。会場には有名なレストランやホテルが食事を出しており、また余興も演じられ華やかな雰囲気です。

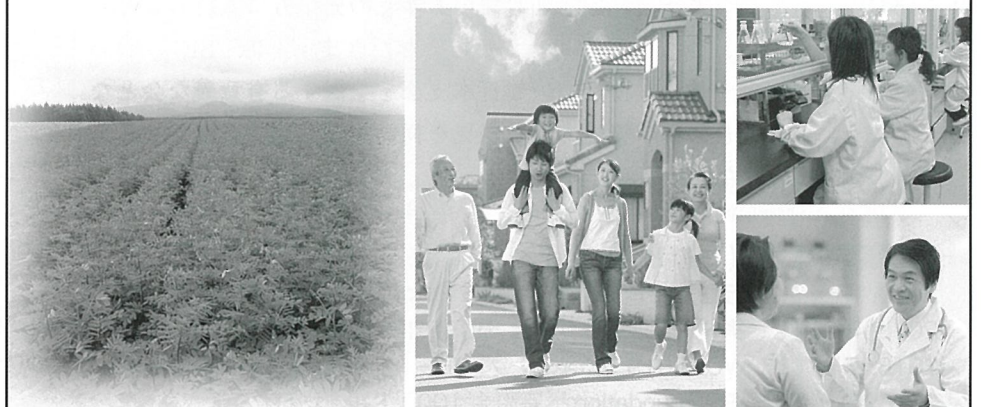
このように台湾大学医学部とは民間の経済・文化交流をベースとして学術・学生交流を展開し、大学間の良好な関係を構築しています。

ご興味のある先生方はご一報ください。



国際交流台湾編

漢方医学と西洋医学の融合により 世界で類のない最高の医療提供に貢献します



自然と健康を科学する
漢方のツムラ

<http://www.tsumura.co.jp/>

●お問い合わせは、お客様相談窓口まで。

【医療関係者の皆様】Tel.0120-329-970 【患者様・一般のお客様】Tel.0120-329-930

48th WCS in Kraków に向けて

浜松医科大学外科学第二講座 講師
菊池 寛利



本年 8 月 11 ～ 15 日に Poland の Kraków にて 48th World Congress of Surgery (WCS) が開催されます。本学の今野弘之学長が International Society for Digestive Surgery (ISDS) の President に選出されて以来、私も微力ながら ISDS program 作成等のお手伝いをさせていただいております。ISDS Executive Committee Meeting は 1 回 / 2 年の WCS に加え、春の Digestive Disease Week (DDW) と秋の American College of Surgeons (ACS) Clinical Congress において 2 回 / 年米国で開催されています。私も 2016 年 5 月の DDW in San Diego 以降、毎回 Secretary として出席させていただきました。ISDS Executive Committee Meeting では ISDS program について毎回議論が行われ、2018 年 10 月の ACS in Boston で program と moderators が確定いたしました。今回の ISDS program は、ISS/SIC の President Andrew Hill の意向もあり低・中所得国の現状に配慮してテーマを作成した点や、Tumor Boards の設定などが特徴的であることに加え、本年が ISDS 設立 50 周年に当たるため記念式典を予定しております。他の外科系国際学会にはない特徴的で魅力的な program であり、8 月の WCS が大変楽しみです。

2016 年 6 月に Poland の Lublin で開催された Second Triangle Symposium of the Poland-Hungary-Japan Surgical Society に参加した際には、レンタカー



2018 年 10 月、ISDS Executive Committee Meeting in Boston にて

で Warszawa から Lublin に入り、浜松医科大学の学術交流協定校である Medical University of Lublin を訪問した後に Kraków まで移動し、48th WCS の会場や周辺を視察して参りました。Poland は「平原の国」という意味があるくらいで、500km を超える道中の多くは長閑な平原の道であり、比較的

快適なドライブでした。一方、各都市は近代的ながら歴史的な建築物が多く、見所の多い国であると思います。御存じの通り多くの国と国境を接し激動の歴史を歩んできた Poland において、もっとも古い街である Kraków は、1611 年に現在の Warszawa に移転するまで 500 年以上にわたり Poland の首都でした。Kraków は歴史に翻弄されてきた街ですが、第二次世界大戦の戦火を逃れたことにより中世の街並みが残っており、Poland の京都と称される大変美しい街です。多くの先生方に 48th WCS に御参加いただき、Kraków の街を楽しんでいただければと思います。また、時間が許せば、是非レンタカーで Poland の平原をドライブすることをお勧めいたします。



2016 年 6 月、Centrum Kongresowe ICE Kraków にて



2016 年 6 月の愛車、Škoda Octavia made in Czech (左ハンドル 6 速 MT)

高カロリー輸液用 糖・電解質・アミノ酸・総合ビタミン・微量元素液
処方箋医薬品* 薬価基準収載

エルネオパ® NF1号 輸液
エルネオパ® NF2号 輸液

ELNEOPA-NF No.1 Injection
ELNEOPA-NF No.2 Injection *注意—医師等の処方箋により使用すること

ビタミンB1・糖・電解質・アミノ酸液
処方箋医薬品* 薬価基準収載

ビーフリッド® 輸液
BFLUID® Injection *注意—医師等の処方箋により使用すること

◇効能・効果、用法・用量、警告・禁忌を含む使用上の注意等は、製品添付文書をご参照ください。

資料請求先
製造販売元 株式会社大塚製薬工場 徳島県鳴門市撫養町立岩字芥原115
販売提携 大塚製薬株式会社 東京都千代田区神田司町2-9

Otsuka

(‘17.08作成)

2018 年度決算書

2018 年度収支決算書 1. doc

(2018 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

ISS/SIC

日本円の部

単位：円

I 収入の部	予算額	決算額	備考
会費	700,000	700,000	6213.94 ドル
広告掲載料	800,000	675,000	
寄付	0	0	
雑収入	0	81	
当期合計	1,500,000	1,375,081	
前年度繰越金	9,647,508	9,647,508	
収入合計	11,147,508	11,022,589	
II 支出の部			
会議費	380,000	271,442	支部総会開催（春・秋）
通信費	110,000	201,226	
印刷費	380,000	326,160	支部ニュース 46 号・47 号
文具費	5,000	2,138	
交通費	40,000	16,768	
人件費	520,000	520,000	
雑費	150,000	15,376	
予備費	50,000	0	
Yokohama Award 賞金	0	0	
支出合計	1,500,000	1,353,110	
収支残高	9,647,508	9,669,479	次年度繰越金

US ドルの部

単位：ドル

I 収入の部	予算額	決算額	備考
会費	7300.00	4688.39	
利息	0	12.36	
前年度繰越金	6957.03	6957.03	内 3729.45 は、2018 年度会費の前払い金として預かり
収入合計	14257.03	11657.78	
II 支出の部			
日本円へ預替	6300.00	6213.94	
スイス本部への寄附	1000.00	1000.00	
支出合計	7300.00	7213.94	
次年度繰越金	6957.03	4443.84	

残高 日本円 9,669,479 円 (通帳残高 9,645,620 円+現金 23,859 円)

US ドル 4443.84 ドル (通帳残高 4443.84 ドル)

※2011 年 ISSW2011 横浜より YOKOHAMA AWARD 賞金として余剰金 (7,812,000 円) を寄附

ISS/SIC 万国外科学会 日本支部

年 月 日

監事 田中雅夫

2019 年 1 月 23 日

監事 田中雅夫

2019 年度予算案

2019 年 予算案 (2019 年 1 月 1 日～12 月 31 日)

ISS/SIC

日本円の部

単位：円

収入の部	予算額	備考
ドルから預替	700,000	6300 ドル 1 ドル 112 円で計算
広告掲載料	800,000	8 社 x 2 回
寄付	0	
雑収入	0	
利息	0	
当期合計	1,500,000	
前年度繰越金	9,669,479	
収入合計	11,169,479	
支出の部		
会議費	450,000	支部総会 2 回分・JAPAN NIGHT 補助
通信費	200,000	
印刷費	340,000	支部ニュース 2 回発行分
文具費	5,000	
交通費	100,000	
人件費	520,000	
雑費	15,000	
予備費	20,000	
Yokohama Award 賞金	500,000	
支出合計	2,150,000	
収支残高 (次年度繰越金)	9,019,479	

ドルの部

単位：ドル

収入の部	予算額	備考
会費	7,300.00	
利息	0	
繰越金	4443.84	
収入合計	11743.84	
支出の部		
日本円へ預替	6,300.00	
ISS Foundation 寄付	1,000.00	
支出合計	7,300.00	
次年度繰越金	4443.84	

すべての革新は患者さんのために

CHUGAI 中外製薬

Roche ロシュグループ

at the Front Line CHUGAI ONCOLOGY

抗悪性腫瘍剤
劇薬、処方箋医薬品注

ゼーダ®錠 300

Xeloda® カペシタビン錠

注) 注意—医師等の処方箋により使用すること
(®) F. Hoffmann-L Roche (スイス) 登録商標

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意等は製品添付文書をご参照ください。
<https://www.chugai-pharm.co.jp/>

(資料請求先)
製造販売元 中外製薬株式会社
〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1

2019年3月作成

第46回 万国外科学会(ISS/SIC)日本支部総会 理事会報告

北野日本支部長：先般、ACS の際にボストンで行われた。規約の改定案として、例えば、新興国においては少し値段をさげる等 メンバーシップの Fee を改めていきたい。また Andrew Hill 会長から、フェローを作っていきたいとの発案もあった。最終決定ではないので、財政の面も考慮しながらディスカッションを進めて行く。いずれにしても、各国の会員を増やすことが先決となる。日本支部会員は米国に続き会員数が多く、万国外科学会を牽引していく役割にあるのでコレクティブメンバーの先生方と共に、会員を増やすべく努力をしていきたい。

World Congress of Surgery (WCS) 2019 クラックについて

和田事務局長：2019 年 8 月 11 日から 15 日まで、ポーランドのクラックで開催予定。主な日程は支部ニュースに掲載の通り。1 日目に行われる Japan Night については、これまで企業の支援によって参加費無料という形式で行われていたが、家族の参加も可能にするべく会費制にする方向で検討を進めていく。

北野日本支部長：WCS はお盆の時期と重なる為、航空券の予約を早めにとることを薦める。

Collective Members Societies について

IAES/ 今井常夫先生：現在のところ WCS2019 のプログラムにのっている IAES メンバーの日本人は 3 名。オーラルプレゼンテーションの座長を日本医大の杉谷先生、ジャッジを今井が担当し、今回のマレーシアでの IAES のプレジデントである宮内昭先生がクロージングリマークスをされる。宮内先生は、先日マレーシアを訪問され、IAES のメンバーでありマレーシアの厚生省の要職をされているヒーシャム先生から、状況を伺ったとのこと。既にオーガナイズコミッティーも立ち上げ、順調に準備が進んでいる様子である。

IASMEN/ 東口高志先生：北野先生今野先生と共に、初めてエグゼクティブコミッティーに参加してきた。北野先生がおっしゃる様に、なかなか難しい立場である。WCS の開催時期についても、出来れば日本人のことを考慮した日程の設定が将来的にも必要であると感じ、以前から事務局のクリスに提案を続けている。もう一点は、メディカルスタッフの参加に関して Fee をもう少し下げて会員制度を見直してもらえれば、お盆でも参加者は増えるのではと思っている。IAESMEN からは、7、8 名の日本人の先生方にモデレーターとスピーカーの依頼を検討中。特に ERAS というセッションを作っており、Lobo 先生、Hill 先生と共に低侵襲で早期回復という観点で皆様にもディスカッションに参加を募りたい。他にアジアの枠を拡大し韓国の先生にも声をかけ、2 名のモデレーターとスピーカーを推薦しており順調にすすんでいる。

BSI/ 井本 滋先生：第 47 号日本支部ニュースに寄稿させて頂いているが、WCS2019 では総会に先立つ日曜に Educational course として Oncoplastic surgery と Innovational surgical procedure を設けている。後者で講師を担当予定だが、人数が少ないと中止になってしまうこともあるので乳腺関係の先生で出席予定の方には、ぜひ参加を募りたい。手術的な内容が主に討論されているが、今回は、若い女性に多い乳癌、Breast cancer in young women ということで日本でも保険収載された BRCA 検査等を含め、多彩な内容で構成されている。日本からは聖路加の山内英子教授に発表頂くことになっている。

ISDS/ 今野弘之先生：北野先生と宮内先生とともに、Board Meeting に参加させて頂いた。例えば、会費を低・中所得国は半分にするなど、ドラスティックな案がでたが、そうなると会員を倍増させなければいけないなど、ディスカッションがないまま、構想は語られるが決議がされず、という状況であった。その後、ISDS の Executive Meeting があり参加した。ISDS は ISS の中では新参者で、6 つの Collective Member のひとつであり、枠は極めて限られている。プログラム作成責任者の Professor Fichera には「日本人を入れることはすごくメリットがあるよ」と言って、相当入れ込んでもらってはいる。ちょうど、ハイシーズンであり断られた先生もおられ、調整が難しいところではあるが、是非ともご協力をお願いしたい。もう一つは、ポーランドの外科にも色々配慮しており、パネルの症例検討等を企画し、ポーランドの外科医や病院関係者の参加を促す試みがされている。他には、Professor Hill の構想として、発展途上国に対する支援について、なかなか資金援助がなく、構想は素晴らしいけれども、最終的には要検討というところで終わってしまう。次のペルーの外科学会に日本人も 3 人参加可能かと聞かれたがなかなか難しく、他の 3 名が行く事になった。今後も、そのようなお願いが出てきた場合には相談させていただきたい。最後に、ISDS は 1969 年に設立された、新しい学会であるが来年で 50 周年になる。北島先生をはじめ何人かの Past President の先生方にお話を頂くなど、記念となるイベントを計画中。クラックは非常に良いところであるので、是非多くの先生方のご参加をお願いしたい。

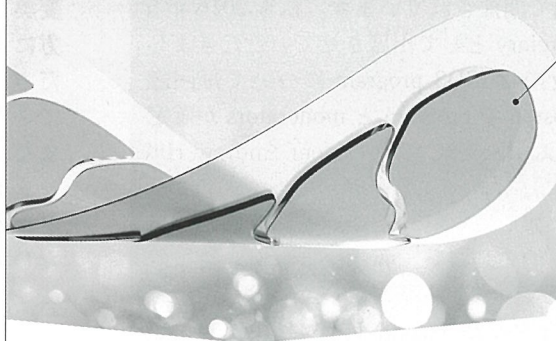
IATSIC/ 溝端康光先生：6 月 18 日から 20 日に例年行っている DSTC を DATC 併設コー

スとして開催した。本コースには、IATSIC の President Elect の Elmin Steyn 先生に講師として参加して頂き、日本外傷学会において Elmin Steyn 先生を海外の名誉会員に推薦した。これにより、IATSIC と日本メンバーとのより強い関係が出来たと思っている。また、2019 年から IATSIC のカウンセラーとして帝京大学の藤田 尚先生に参加して頂く予定である。WCS のモデレーターについては、IASTIC から候補者に連絡がとどいている。

機関誌 (WJS) / 和田事務局長：片井先生が欠席のため、頂いている資料を紹介。2018 年上半期のデータより、投稿数が 1130 あり採択率が 19.4%、目標値を 20% に設定しており目標通りとなっている。投稿数が一番多いのは中国、次が米国で日本は第三位。しかしながら、採択率はかなり違っており、中国が 5.79%、米国が 40%、日本が 22% ということで、採択数で一番多いのはアメリカで 60 件、次が日本で 31 件、次いで UK で 13 件、その後が中国 11 件となっている。インパクトファクターは最近三年間は微増しており、2017 年は 2.766。ウェブサイトの訪問国で一番多いのはノースアメリカ、アジアパシフィック、ヨーロッパと続いている。日本からの閲覧は 4% である。ダウンロード数で一番多いのは、HPB、General Surgical Practice、Trauma Surgery という順である。

視認性と吸収性が求められる術後創へ

ロイコメド C フィルムドレッシング



ハイドロゲルパッドが
視認性と吸水性を提供

- 創の観察を容易にする視認性
- 湿潤環境を維持するための適度な吸水性
- 固定性と肌への優しさ

THERAPIES. HAND IN HAND.

一般名称: 創傷絆創膏 / 販売名: ロイコメド C フィルムドレッシング / 医療機器届出番号: 13B1X10103000034

TERUMO

テルモ株式会社 〒151-0072 東京都渋谷区幡ヶ谷 2-44-1 www.terumo.co.jp

BSN medical

詳細は添付文書をご参照ください

TERUMO はテルモ株式会社の商標です。
Leukomed はビーエスエヌ・メディカル社 (ドイツ) の登録商標です。
©テルモ株式会社 2016年6月



Shaping the future of surgery



ETHICON

Part of the Johnson & Johnson Family of Companies

製造販売業者: ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 メディカルカンパニー 本社 〒101-0065 東京都千代田区西神田3丁目5番2号

一般医療用 販売名: ダーモバンド アドバンスド
特許医療用 販売名: J-VAC バキュームアシスト
特許医療用 販売名: エンディバ トロカールシステム
特許医療用 販売名: EES エレクトリック・カッター・コグニティブ・アサンプラー
特許医療用 販売名: ENFLEX エンフレックス パワー・リニャー・カッター

製造番号: 13B1X00204ME0008
承認番号: 22008B2X00330000
製造番号: 219008B2X00820000
承認番号: 2204A02X00070000
承認番号: 22008B2X00330000

高度管理医療機器 販売名: バイグリン プラス
高度管理医療機器 販売名: HES プラス
高度管理医療機器 販売名: プロキシマイト ILS
高度管理医療機器 販売名: エンフレックス G2 バック・カッター
販売名: サージカル・アダプティブ・ヘルメット 製造番号: 14700AM020050000

承認番号: 22008B2X00620000
承認番号: 22008B2X00330000
承認番号: 219008B2X00820000
承認番号: 22008B2X00640000

高度管理医療機器 販売名: G2 カートリッジ
高度管理医療機器 販売名: EES エレクトリック・カッター
高度管理医療機器 販売名: ハーモニック ACE プラス
高度管理医療機器 販売名: ハーモニック スカルパ II

承認番号: 227008B2X00550000
承認番号: 22008B2X00180000
承認番号: 22008B2X00420000
承認番号: 219008B2X00640000
承認番号: 22008B2X00630000

©2018 ETHICON



新発売

血漿分画製剤 (液状・静注用免疫グロブリン製剤)

薬価基準収載

献血ヴェノグロブリン IH10% 静注

0.5g/5mL, 2.5g/25mL, 5g/50mL, 10g/100mL, 20g/200mL

Venoglobulin® IH 10% I.V. 0.5g/5mL, 2.5g/25mL, 5g/50mL, 10g/100mL, 20g/200mL

（生物学的製剤基準 ポリエチレングリコール処理免疫グロブリン）

【特定生物由来製品】【処方箋医薬品】※注意-医師等の処方箋により使用すること

※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

製造販売元
一般社団法人
JB 日本血液製剤機構

VG (B7) 2018年7月作成

【資料請求先】 日本血液製剤機構 くすり相談室 〒105-6107 東京都港区浜松町2-4-1
医療関係者向け製品情報サイト <http://www.jbpo.or.jp/med/di/>



「効能・効果」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「警告・禁忌を含む使用上の注意」等については、添付文書をご参照ください。

還元型葉酸製剤

処方箋医薬品 (注意-医師等の処方箋により使用すること)

薬価基準収載

ユ-ゼル錠 25mg

UZEL tablet 25mg ホリナートカルシウム錠

製造販売元
資料請求先
(医薬品情報課)

TAIHO

大鵬薬品工業株式会社
〒101-8444 東京都千代田区神田錦町1-27
TEL.0120-20-4527 FAX.03-3293-2451
<https://www.taiho.co.jp/>

2018年9月作成



プロトンポンプ・インヒビター
エソメプラゾールマグネシウム水和物カプセル・懸濁用顆粒

ネキシウム® カプセル10mg/20mg
懸濁用顆粒分包10mg/20mg

薬価基準収載

処方箋医薬品 (注)

注) 注意-医師等の処方箋により使用すること

効能・効果、用法・用量、効能・効果に関連する使用上の注意、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

販売元 (資料請求先)
第一三共株式会社

東京都中央区日本橋本町3-5-1

製造販売元 (資料請求先)
アストラゼネカ株式会社

大阪府北区大深町3番1号

0120-189-115

問い合わせ先: フリーダイヤル、メディア・インフォメーションセンター

2018年6月作成